

わたしの第二の人生

加藤 弘

災害ボランティア

・ 2011 年 3 月 11 日（金曜日）午後 2 時 46 分に発生した東日本大震災で甚大な被害を受けた

宮城県東松島市（29 回）と福島県南相馬市小高区（5 回）

・ 2014 年 2 月の記録的な大雪に見舞われた群馬県前橋市（1 回）

・ 2015 年 9 月 10 日の鬼怒川決壊で浸水被害に遭った常総市（10 回）

これらの被災地の災害ボランティアに計 45 回行ったことが、定年退職後もっとも印象的な経験。



災害ボランティアバス

この経験のなかで；

1. 東松島市災害ボランティアバスに数十回も参加し続けている人たちや、

2. 蚕糸試験場跡地のある高円寺から常総市ボランティアに、個人で何回も参加してきた若い男

性、高円寺地域で参加を募ってきたという30名位の団体ボランティア一行、との偶然の出会い、

そしていっしょに汗を流したボランティア活動は忘れられない思い出。





もう一つのボランティア

東日本大震災と鬼怒川水害の災害ボランティア活動に一区切りつけた（2011 年～2015 年）あ

と、学童保育のボランティア員に応募。普通高校教員免許（工業と理科）を取得していたことが

幸い（？）、2015 年 5 月採用される（2018 年 6 月～支援員）。平日放課後、土曜日、日/祝日

以外の学校が休みの日、小学校児童クラブで子どもたちの安全を見守っています。

それにもう一つ。絵本を読んだり、いろんな工作をしたり、時に起こる子ども同士のトラブルに

遭遇したりするなどの日々を過ごすなか、一年も経つとクラブっ子は驚くほどに成長する（心身

とも）、たいへん楽しみでもある。

該当（更新）のブログ番号 ➡ [No.44<生まれ故郷>](#)

「エピペン」講習 2022 年 12 月 26 日

- ① 2022 年 11 月 5 日のワクチン接種直後の死亡事故（朝日新聞朝刊 2022 年 11 月 18 日記事より）；

私の実家の隣の町、愛知県愛西市佐織で新型コロナウイルスを接種した 42 歳の女性が、接種した 5 分後に容体が急変、死亡した事故。

- ② 10 年前の 2012 年 12 月 20 日、給食を食べた小学 5 年生の女の子が、アナフィラキシー・ショックで亡くなった事故（朝日新聞 2022 年 12 月 19 日、翌日 20 日記事より）；

私がかつて住んでいた狛江市と世田谷区喜多見の隣の町、調布市の市立小で 5 年生の女子児童（当時 11 歳）が、給食で「チーズの入ったじゃがいもチヂミ」を食べたあと、掃除の時間にさしかかったころ、苦しそうにゼーゼーと息をし始めた。どんどん具合が悪くなり、児童がランドセルにエピペンを入れていることは知っていたが、結果的にはエピペンを早く打つことが遅れて死亡した事故。

つい最近、2 件のアナフィラキシー・ショックによる死亡の新聞記事を読んだばかりのなか、「エピペン」講習だった。それまで「食物アレルギー」という言葉は、マスコミ報道などで知っていたが、その症状や対応についてはまったく認識がありませんでした。今回受講し、以下の 3 点と思う。

・アナフィラキシー・ショックは古く傷んだ食物を食べて発症する食品中毒とは違い、心停止発

現まで時間がひじょうに短く、即座（30 分以内か）に対応、対処しなければ生死をわける重大
事の発生。

・食物アレルギーの原因となる食品を食べて（誤食して）、アナフィラキシー・ショックによる

死亡者が毎年、一年間で 4～5 人もいることに大変ビックリした。

・食後に激しい運動をすると、運動誘発性アナフィラキシー・ショックを起こす可能性がある。

食事後 30 分間は激しい運動を避けることが肝要である。

（講師の先生に質問）

保護者から児童クラブに「自分の子どもには食物アレルギーがある、アレルギーの食べ物はこれ

とこれです」という旨の通知は受けてはいるけれども、その子はファイザーの自己注射器「エピ

ペン」は保持していない（エピペンを医者から投与されていない）場合に、その子が万が一、お

やつを食べたあと（食物アレルギーの原因となる食品を誤食してしまったあと）、しばらくして

急に「アナフィラキシー・ショック」が疑われるような状況（のど元をおさえて苦しそうにゼー

ゼーと息をし始める、繰り返し吐きつづける、がまんできないおなかの痛みが始まる）に陥った

とき、どう対処したらよろしいのでしょうか。

講演を聞いて私なりに出した結論は；

すぐに 1 1 9 番、救急車を呼ぶ。